

## プレス発表資料

平成 17 年 3 月 29 日  
(財)岐阜県産業経済振興センター

### 平成 16 年度「グループ研究事業」成果について

平成 16 年度は 4 件の採択となった。9 件の応募につき、審査会を経て決定した。

	事業内容
1	オーガニック材等を素材活用したエコ・セラミックス製品開発
2	リグニン調査研究
3	快適な椅子のデザイン調査研究
4	鋼材在庫管理等の業務効率化のための IT 活用

#### 1. オーガニック材等を素材活用したエコ・セラミックス製品開発

##### 【構成メンバー】

県内企業 10 社：(有)ヤマカ陶苑、山保製陶(株)、寿泉窯、(株)バウハウス、(株)アイワ、(株)ヤマカ陶料、(株)小田井商店、(有)カク富製陶所、丸直製陶所、(株)山新  
支援機関：岐阜県セラミックス技術研究所、土岐市立陶磁器試験場、瑞浪市窯業技術研究所、多治見市陶磁器意匠研究所

##### 【趣旨】

企業活動、家庭から排出されるオーガニック材（木材チップ、栗の皮、お茶の残り葉などの有機物）を陶磁器の原料とし、食器などの新たな製品開発を目指す。また、併せて排出地域のエコライフ（循環型社会構築）をデザインする。

##### 【特色】

製品開発には、再生土を使用する。また釉薬についても、土で分解されて自然に還るものを使う。

オーガニック製品開発に際し、新たなデザインコンセプトから取り組みを行ないたいと考え、愛知県立芸術大学院生にデザインを委託する。

##### 【研究目的の達成度】

栗の皮灰を使用したティーポットほか、環境にやさしいイメージの器を 15 点試作した。今後は、試作品の修正をし、最終完成品の販路開拓のため、岐阜県の東京・大阪事務所や研究会アドバイザーである小野恵美子氏（有)スタイリングワークス社長）の協力を得て東京(百貨店中心)での展示会・企画を実施する。

## **プレス発表資料**

### **2. リグニン調査研究**

#### **【構成メンバー】**

県内企業 5 社：(株)わかば、(株)天龍工業、丸ス産業(株)、(株)東海パウデックス)

支援機関：岐阜県生活技術研究所

#### **【趣旨】**

生活技術研究所が特許として保有する、リグニンから高吸水性ポリマーを分離抽出する技術について、ビジネスへの最適な応用方法を探る。

(たとえば和紙パルプ製造過程で排出されるリグニンを、紙おむつや山の糊面への塗布剤などに応用できないか検討する)

#### **【研究成果】**

当初目的は未達。

- ・ 和紙廃液から微量の高吸水性リグニンの抽出(試験管レベル)は出来たが、製造および廃液処理コストの面から、参加企業で断念やむなしとの結論に至る。
- ・ さらに、産廃物である杉皮廃液からリグニンを抽出する試みも行なったが、超微量のため採算ベースに合わないと判断。
- ・ 最後の手段として、既往の高吸水性リグニンを使用して、ビジネス応用を検討したが、1グラム 800 円(キロ 80 万円)と高価なため、参加企業断念した。

### **3. 快適な椅子のデザイン調査研究**

#### **【構成メンバー】**

指導者：早稲田大学 野呂影勇教授

県内企業 6 社：(株)イバタインテリア、オークヴィレッジ、(株)キタニ、柏木工(株)、日進木工(株)、飛騨産業(株)

支援機関：岐阜県生活技術研究所

#### **【趣旨】**

大手家具メーカー同様、飛騨の家具産地としても消費者ニーズに対応できる製品開発力を高めるため、従来のセールスポイントである素材の良さとデザイン面にさらに「人間工学に基づく＝具体的な実験数値に裏づけされた、付加価値の高い快適な木製椅子」作りを目指す。

#### **【特色】**

生活技術研究所が有するノウハウと、本事業の指導者である早稲田大学野呂影勇 教授のノウハウおよび地元木工メーカーの技術力を最大限に活用した研究成果を目指す。

#### **【研究目的の達成度】**

研究会座長が責任者を努める「エルゴシーティング社」に対し、人間工学に基づく椅子の座り心地に関する実験を委託・実施した。この分析結果をもとに、付加価値を高めた飛

## プレス発表資料

驛の椅子の開発、販売に次年度以降注力していく。

### 4. 鋼材在庫管理等の業務効率化のためのIT活用

#### 【構成メンバー】

指導：土井 康生（国立岐阜工業高等専門学校教授）

芝川 豊（芝川構造設計室代表）

酒井 稔（㈱酒井設計事務所代表）

県内企業 8 社：水野産業(株)、㈱北川鉄工所、金神鋼業(株)、(有)中部工業、名和工業(株)、青木鉄工所、梅村建工(株)

#### 【趣旨】

鋼材の高騰により、これまで廃棄物扱いされていた鋼材の端材（＝デッドストック）の再利用を考える。本研究会では、端材の需要調査を行いニーズを把握したうえで、最終的に必要な者に必要な分だけ必要な時に提供できるような在庫管理システムを構築する。

#### 【研究目的の達成度】

県内において、鉄の端材の需要があるか、また端材在庫管理システムの必要性について県内 2 つの鉄鋼組合計約 123 社を対象にアンケート調査を実施した。（回答 57 社）

結果、端材の需要が高いこと、管理システムを作成して情報の共有化を望む声が多いことがわかった。さらに研究会参加企業へのヒアリング（端材の置き場所・保管方法、在庫管理）を実施し、端材管理の問題点を調査した。現在、メンバー間で「端材在庫管理システム」を構築・運用して、その使い勝手について意見を出し合うところまで進行している。

<問い合わせ先>

(財)岐阜県産業経済振興センター企画研究部 長谷川 敦司、高橋 浩二

T E L : 058 - 277 - 1082 F A X : 058 - 277 - 1095 E - mail : hasegawa@gpc.pref.gifu.jp